

# 社会科における租税についての授業の構想と展開

— 外部機関との連携を通して —

藤井 時\* , 川岡 杏子\* , 笹岡 綾馬\* ,  
楡下 知夏\* , 前田 理拓\* , 高倉 健輔\* ,  
伊達 知美\*\* , 高平 知侃\*\*\* , 井上 奈穂\*\*\*\* ,  
伊藤 直之\*\*\*\* , 青葉 暢子\*\*\*\* , 麻生 多聞\*\*\*\*

(キーワード: 租税, 外部機関, 社会科)

## I. はじめに

本稿では、2019年度に行った「租税」をテーマとした社会科の授業の開発・実践についての報告とその検証及び課題の検討を行うものである。

鳴門教育大学大学院では、大学院の授業の中で学校と連携し、授業開発・実践を行う「教育実践フィールド研究」という授業がある。筆者らが所属する社会系コースでは、徳島県内の小学校・中学校と連携し、社会科の授業を開発・実践を行ってきた。この一連の研究の中で、社会系教科の授業において、体験的な場面(井上ほか2012, 2013, 2014, 2015), 視聴覚資料の活用(益井ほか2016, 小川ほか2017, 原ほか2018), 外部機関の活用(長尾ほか2019, 山根ほか2020)を行った授業実践・教材の具体を示し、さらに、授業実践を受けた児童・生徒の学習成果を分析し、授業で行った手立ての有効性の検証と生徒へのフィードバックの具体を示してきた。

これらの先行実践では、体験的な活動や視聴覚資料の活用といった授業の手立てに着目しており、そこで扱ったテーマの特性を十分に踏まえたものではなかったといえる。そこで、2019年度は、四国税理士会と連携<sup>1)</sup>し、税理士による専門的な知見とアドバイスを踏まえた授業開発・実践を行った。この構想から開発、検証までの過程を踏まえ、社会科において「租税」をテーマとする場合の課題を明らかにする。

## II. 授業開発の過程

### 1. 日本税理士会による「租税教室」の特徴

「租税」は、「公平・中立・簡素」であるべきとされる。しかし、日常生活における税の種類、それらの納税方法等は多岐にわたり、さらに、日々変化している。このよ

うな現状を踏まえ、日本税理士会は、納税者意識の形成を目的として、全国で年間約1万件以上の租税教室を飛び込みで行っている。これら、いわゆる「租税教室」については、指導案・掲示資料・授業の進め方のアドバイス等をまとめた日本税理士会連合会租税教育推進部『租税教育—講義用テキスト(2019年改訂版)—』<sup>2)</sup>がある。本テキストは、小学校・中学校・高等学校において租税教育を行う際のモデルテキストとして開発されたものであり、「初めて租税教育に取り込まれる方にもわかりやすく、円滑に授業の準備が進められるよう(p.1)」構成されており、8章(第1章 租税教育に取り組むにあたって、第2章 税理士会の租税教育事業、第3章 小中学校向け講義テキスト〈参加・体験型〉、第4章 小中学校向け講義用テキスト〈講義型〉、第5章 「税って何か?」パワーポイント版、第6章 高校生向け講義用テキスト〈参加・体験型〉、第7章 高校生向け講義用テキスト〈講義型〉、第8章 特別支援学校での租税教室を行うにあたって)で構成されている。初めて、小・中学校で授業を行う税理士の方を対象とした租税教育についてのテキストである。第1,2章では学校との打ち合わせ等を含む、事務的な準備等が示されており、第3~7章に、小学校から高等学校で行う租税教室用シナリオ例が示されている。なお、シナリオ例は、〈参加・体験型〉と〈講義型〉に分かれている。

このテキストは、実際の租税教室の中で活用され、提示されている授業計画・教材はいずれも実践されているものである。また、日常的に税を専門的に扱っている税理士の方が作成している。その意味で、内容としての妥当性や現実性を持っていると言える。

本実践を行うにあたり、このシナリオ例の中から、教材を取り上げ、小学校・中学校で租税教室での実施を想定し、実践を試みた。図1は実施した単元の全体像であ

\*鳴門教育大学大学院 社会系コース

\*\*鳴門教育大学大学院 現代教育課題総合コース

\*\*\*岡山県立玉野光南高等学校

\*\*\*\*鳴門教育大学 高度学校教育実践専攻(教科系)

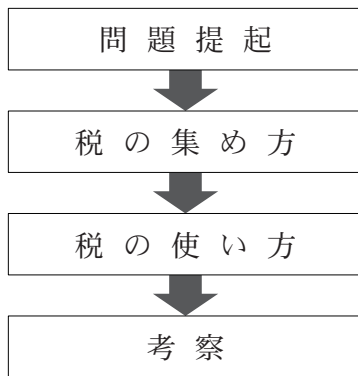


図1. 授業実践の全体像

		消費税	自動車税	酒税	法人税	所得税	
		4%	2%	1%	20%	20%	
収入	支出	特定の人	特定の人	同率(10%)	累進課税		
2500	A	1000	0	2500	750	500	...
500	B	1000	0	500	150	50	...
7000	C	1000	3000	0	2100	2450	...
		3000	3000	3000	3000	3000	...

図2. 税負担の具体 (累進課税)

る。

租税について学習を行うにあたり、租税の歴史に触れておくことが有効といえる。そこで、問題提起では、日本における税の始まり(⑭税の歴史)と、外国におけるユニークな税のクイズ(⑰-⑱特殊な税)を取り上げることとした。

次に「税の集め方」、「税の使い方」については、体験的な活動の場を設定することにした。

「税の集め方」については、シナリオ例に挙げられている税の集め方ゲーム(⑲-⑳税の集め方)を取り入れた。次に、「税の使い方」については、テキストから税の役割について示されている箇所(⑥-⑩税の役割①, ⑪-⑬税の役割②)を、体験的な活動に組み直し、取り入れることとした。税を「集める/使う」という2つの体験的な活動を対比的に用いることで、税についての多面的・多角的な理解を試みた。

最後に授業を通して気づいた税と自分たちの生活とのかわりについての考察を行わせた。

以下、本単元を中心となる2つの教材(税の集め方ゲーム, 税の使い方ゲーム)について見ていこう。

## 2. 教材上の工夫

### (1) 税の集め方ゲームについて

税の集め方ゲームは、国民の一人または一世帯の視点から税を納めるプロセスを通して、平等・公平の集め方の重要性に気づかせることが目的となっている。

参考としたのは、シナリオ例にある右のスライドである<sup>3)</sup>。このシナリオ例の実践にあたり、四国税理士会の橋本氏からアドバイスを受けた。このシナリオ例は、税を納める人の条件による税率の違いに気づき、それらの妥当性に気づかせることが目的となっている。本シナリオ例を実際に活用している税理士の方に教材の特徴と実践についての解説と検討会をお願いした。検討会の中で争点となったのは、税の種類が多さである。シナリオ例では、税の種類ごとでの考察となっているため、「税の集め方」を考える上で必要な「平等」や「公正」の観点が



写真1. 検討会の様子

あいまいになる可能性がある。検討の結果、「税の集め方」に焦点化することで、「税の使い方」との対比をさせることとした。また、金額については、累進課税の税率を参考に、実際に近い形に設定とすることにした。検討の結果、「国の球場の改装工事」のための費用をどのように集めればよいのか?を作業課題とした。その際、以下の点に配慮した。

- ・費用がより現実的になるよう1,500万円に設定した。
- ・「球場改装工事の必要はない」などの意見が出ないよう、球場の改装工事を行うことは全国民が納得していることを前提とした。
- ・2回ゲーム(問題1, 2)を行い、「平等な集め方」、「公平な集め方」の2つを体験させ、違いに気づかせることをねらいとした。

#### ① 問題1: 平等の観点から

グループの収入が一律1,000万円。各グループが500万円ずつ納めることで1,500万円が集まる設定にする。グループごとに納める金額を決めさせ、各グループの出した金額にばらつきが出た場合は、1,500万円にならない。この設定により、「平等」の観点からの考察を促している。なお、グループの収入については活動の最初には開示せず、自身の所属するグループの収入しか分からないようにしている。

#### ② 問題2: 公平の観点から

グループの収入にばらつきを持たせ、目標金の1,500万円を集める設定にする。各グループの状況を考慮した

「公平」な負担を考えなければならぬことに気づかせるために、自身のグループの収入からの判断と他のグループの偵察を踏まえた判断の2回によって金額を決めさせる。(前田 理拓・井上 奈穂)

## (2) 税の使い方ゲームについて

税の使い方ゲームは、国民の一人または一世帯の視点から集めた税の使い方を考えるプロセスを通して、財政民主主義（国家が財政を動かす際には国民の代表から構成される議会の議決が必要であるとする考え方<sup>4)</sup>）の考え方に気づかせることが目的となっている。

参考としたのは、「税の役割」についてのシナリオ例である。ここでは、「例えば、国などが次のような施設などをみんなから集めた税金でつくってくれなかったら、どうすることが起きるでしょうか？(p.86)」と問い、火事になったのに消防車が来ない、道路が穴だらけになってしまうなどに気づかせる内容となっている<sup>5)</sup>。「税の使い方ゲーム」についても、関連する教材について橋本氏に解説いただいた。小学校、中学校で租税教室を行う際、公共施設等の写真を提示し、「税を使っている／使っていない」を判断する活動を取り入れていることや、「公的な」施設であっても、すべて税によってつくられているとは言えない場合もあるため、確認が必要であることを指摘された。

橋本氏の解説を踏まえ、架空であっても実践を行う地域も即した政策／施設を設定すること、また、地域の実態に合わせた数字を踏まえた予算配分を行うことを確認した。

今回は、小学校第6学年と中学校第2学年を対象とした2つの飛び込み授業での実践を想定していたため、それぞれの地域や発達段階を考慮した。表1は、それぞれの設定である。なお、作業課題について、個人で考える活動を踏まえ、グループで考えさせることを通して、多面的・多角的に政策・施設について考えることができるように設定している。また、小学校の実践では計算が煩雑にならないよう、投票形式に設定することにした。

(桧下 知夏・井上 奈穂)

表1 「税の使い方」ゲームの設定

	小学校第6学年対象	中学校第2学年対象
作業課題	みんなが住みやすい街にするためにはどんな施設が必要だろうか？	もしも、徳島県議会の議員だったら、予算の範囲内でどんなことをしたいですか？
対象地域	美馬市(市町村レベル)	徳島県(都道府県レベル)
金額設定	—	100億円
政策/施設	①学校 ②警察署 ③公園 ④ゴミ処理施設 ⑤消防署 ⑥図書館 ⑦公立病院 ⑧公立遊園地 ⑨老人ホーム(公立)	産業・社会保障・交通・教育・災害対策

(筆者作成)

## III. 小単元「国民の生活と政府の役割」の場合

### 1. 単元の概要

社会科の中で、税に関する内容が取り上げられるのは、小学校の第6学年政治学習、中学校の公民的分野で行われる。本単元は、税についての理解を深めることをねらいとしており、租税と財政の関係を捉えさせる授業として構成されている。つまり、児童／生徒に、「税の負担者」としての立場に立たせ、税金の使い道や配分の在り方の選択・判断する活動を通して、税についての理解と関心を深めることで納税者としての自覚を養うことをねらいとしている。小学校、中学校のそれぞれの段階で行うことが想定されている。つまり、平成29年に告示された学習指導要領に準拠すれば、小学校では、第6学年社会科編の内容「(1) 我が国の政治の働き」の「ア. 国民生活と地方公共団体や国の政治の働き」に位置づき、また、中学校では、公民的分野の内容「B. 私たちと経済」の「(2) 国民の生活と政府の役割」に位置づいている。

### 2. 単元の構想

○小単元名 「国民の生活と政府の役割」

○日 時 (1) 中学校

令和元年12月19日(徳島県内のB中学校10名)

(2) 小学校

令和2年1月28日(徳島県内のA小学校32名)

○単元目標

- ・税の集め方・使い方の仕組み及び背景にある財政民主主義という考え方や税と私たちの生活の関係を理解している(知識・理解)。
- ・よりよい税の集め方・使い方について、判断・構想し、自分なりの考えを表現している。(思考・判断・表現)  
(川岡 杏子)

○授業計画

(1) 第1次

○第1次の目標

- ・税の集め方を「平等」「公平」という視点から考察し、税の集め方の仕組み及び背景にある財政民主主義について理解している。
- ・よりよい税の集め方について、判断・構想し、自分なりの考えを表現している。

○第1次の流れ

児童／生徒の活動	教師の支援
1 「税」に関わる話題を通して、身近な生活と「税」とのかかわりを踏まえ、本時のめあてを確認する。 (1) 2019年10月消費税率増税 (2) 世界の税金についてのクイズ	・パワーポイントを使用し、話題を提示し、税に対する関心を持たせる。 ・消費税率や世界の税についてのクイズを通して、税と生活とのかかわりに興味・関心を持たせ、本時のめあてを提示する。

<p>税はどのように集められ、私たちの生活とどう関わっているのだろうか。</p>	
<p>2. 税の集め方についてのゲームを行う。</p> <p>(1) 問題1：設定が同じ</p> <p>① グループでの話し合い</p> <p>② 発表を通して、それぞれの判断を共有し、「平等」の観点から、「税の集め方」を考えることができることを確認する。</p> <p>(2) 問題2：設定が異なる</p> <p>① グループでの話し合い</p> <p>② 発表・偵察</p> <p>③ ①②の活動を通して、それぞれの判断を共有し、「公平」の観点から、「税の集め方」を考えることができることを確認する。</p> <p>3. 税の集め方は、「平等」と「公平」の2つの考え方に基づいていること、「集め方」についての判断は、選挙を通して行われることを確認する。</p> <p>4. 本時のまとめを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班でいくらずつ出せばよいのかについて考えさせる。</li> <li>・(1)では、A～Cを同じ設定、割り切れる数字を示し、「平等」の観点から各グループの負担を考えるように支援する。</li> <li>・もし不平等な意見が出た場合は、「平等」という点に着目するよう支援する。</li> <li>・(2)では、A～Cを異なる設定にし、「平等」の観点から考えることができないことに気づくよう、支援する。</li> <li>・発表では、金額のみを発表させ、想定した金額に達しないことを確認させ、各班の違いについて疑問をもたせる。</li> <li>・各班から偵察隊を派遣し状況を調べさせる。</li> <li>・「平等」だけでなく、「公正」に着目しないと解決できないことに気づくよう、支援する。</li> <li>・「平等」の考えに基づく税の例や「公平」の考えに基づく税の例、集め方と選挙・政治との関わりについて説明する。</li> <li>・本時の内容を自分の言葉でまとめるよう、指示する。</li> </ul>

第1次では、「税金を払ったことがあるか？払ったのであれば、どこで払ったのか？」、「消費税が始まったのはいつか？」と問い、身近な消費税から、税は自分たちの生活に身近なものであることに気づかせる。次に、そもそも「税」の始まりについて話題を移し、日本だけでなく世界中に様々な税があることをクイズ形式で確認し、本単元で扱う「税」と自分たちの生活についての興味・関心を高める。その上で、この時間は、税の集め方について勉強するために、「集め方ゲーム」を行うことを提案し、実施する。(笹岡 綾馬)

(2) 第2次

○第2次の目標

- ・予算配分について考える活動を通して、予算を決める仕組みや背景にある財政民主主義についての考え方を理解している。
- ・よりよい税の使い方について、判断・構想し、自分なりの考えを表現している。

○第2次の流れ

児童／生徒の活動	教師の支援
<p>1 税は誰がどのように使い方を決めているのか、どのような使われ方をしているのか、徳島県を事例として示し、本時のめあてを確認する。</p> <p>税はどのように使われ、私たちの生活とどう関わっているのだろうか。</p> <p>2 予算を使ってどんな徳島県にしたいか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の授業内容を振り返り、税の「使い方」に着目するよう、支援し、本時のめあてを確認する。</li> <li>・個人で考えた後、各班で内容を共有する。</li> <li>・各項目に明確に分類することはできないことを伝える。</li> </ul>

<p>3 2で考えた徳島県を実現するためにはどの項目に予算を使えばについて考え、選択する。</p> <p>4 仮に、100億円を徳島県のために使えるとしたらどのように配分するかについて考える。</p> <p>(1) 各グループで円グラフにまとめる。</p> <p>(2) 発表し、全体で共有する。</p> <p>(3) それぞれの班の発表を聞いて、最も徳島県のことを考えてつくられている班を決定する。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 本時のまとめを行う。</p> <p>(2) 単元全体のまとめを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の意見を取り上げ、分類する。</li> <li>・参考資料として他県の事業例を手元に準備し、机間指導の際適宜助言する。</li> <li>・理由、根拠、目的を徳島県のことを考えて発表するよう指導する。</li> <li>・どの班の予算配分が正解とか不正解とかを決めたわけではないことを伝える。</li> <li>・2時間の内容をもとに考えたことなどを書くように指示する。</li> <li>・税金の使い方、集め方の授業をふまえて税金とどのように関わっていくのか記述するよう支援する。</li> </ul>
--	--

第2次では、身の回りにある「税」によって行われている政策／施設に着目させ、税が「みんなのもの／こと」を作ったり、行ったりするために使われているのかを、クイズを通して確認する。次に、第2次では税の「使い方ゲーム」を行うことを提案し、実施する。

「使い方ゲーム」の振り返りとして、各グループが選択した政策／施設について全体で共有し、それぞれがどんな社会を目指しているのかについて確認する。最後に、税の「使い方」には正解があるわけではないこと、主権者である自分たちで考え、意見を表明し、決定することが大切であることをまとめとして示す。(高倉 健輔)

3. 授業の実際

授業実践は、中学校と小学校で行った。どちらも、税の学習を前提としない「飛び込み授業」となっている。なお、中学校での実践では10名の生徒が参加したため、3班に分けて行った。小学校は32名8班に分けて行った。以下、それぞれの授業の実際である。

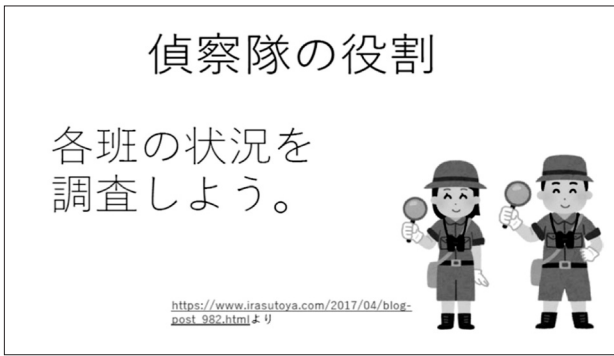
(1) 中学校の場合

① 第1次

生徒に対して税を払った経験があるかどうかを生徒に尋ねた。実際、生徒のほとんどが買い物の際に消費税を払ったことがあった。また、消費税率の引き上げの話題から消費税や世界の歴史上の特異な税について触れた。これらの活動を通して、税についての興味関心を喚起し、本時のめあて「税はどのように集められ、私たちの生活とどう関わっているのだろうか」を提示した。

まず、問題1である。「県営球場の改装工事のために1,500万円が必要です」と示し、改装工事のために、各班がいくら出すかを話し合わせた。問題1では、各班に割り当てられた金額は一律1,000万円であり、条件は同じとした。

話し合いを通して、500万円ずつ拠出するのが適切で



パワポ 1. 偵察隊の指示

あると3班とも判断していた。その理由としては、「同じ負担にするべきだから」、「公平に税は納めるべきだから」、「能力に応じた負担をするべきだから」といった理由であった。このことから、それぞれの班が平等な考えに基づいた集め方を構想したといえる。

次に、問題2である。問題2では、割り当てられた金額が班によって異なり、A班は、200万円、B班は800万円、C班200万円と設定し、他のグループの状況は分からないようにし、負担金額を構想させた。その後、金額のみ発表させ、合計金額は910万円となり、1,500万円に及ばないことを確認した。次に、他の班への偵察を許可し、全体の情報収集を行わせた（パワポ1）。

この偵察隊が持ち帰った情報をもとに、各班で再度納める金額について検討させた。偵察で得られた情報をもとに、自らが負担金と、他の班に求める負担金について白熱した議論が見られた。話し合いを受けて、検討した負担金とその理由について発表させた。「残額が等しくなるような方法」「負担具合のバランス」、「収入が高い班に全額納めさせる」のように、どの班も公平性を考えた金額を提案していた。

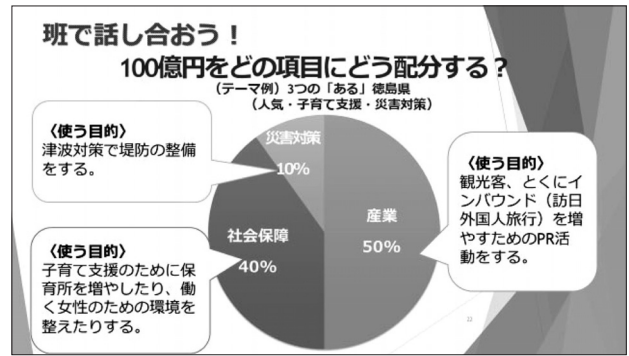
この「集め方ゲーム」を「税の集め方」における「平等」と「公平」の観点から振り返り、実際の「税金の集め方」は、偉い人が勝手に決めているのではなく、選挙で選ばれた議員による話し合いによって決められると授業全体をまとめた。

本授業の反省としては、偵察後の活動に想定以上の時間がかかり、振り返りの時間が十分に取れなかったことが挙げられる。（高平 知侃）

② 第2次

前次の「税の集め方ゲーム」を振り返り、本時のめあて「税はどのように使われ、私たちの生活とどう関わっているのだろうか」を提示し、第2次のワークシートを配布した。

まず、「税の使い方」では、選挙で選ばれた議員による話し合いで決められていることを確認した。次に、「どんな徳島にしたいと思いますか?」、「徳島県の議員だったら、5つの項目（産業、社会保障、教育、交通、災害対



パワポ 2. 予算配分

策) からどの項目に予算を配分しますか?」について考えさせた。

次に、選んだ項目について、「100億円をどの項目に配分するかかんがえてみよう!」と提示（パワポ2）し、円グラフで表現するよう指示した。

最後にグループで出した案と項目決めから100億円の予算配分を行う課題に取り組んだ。

班ごとに特徴的な予算編成を組んでおり、将来の徳島県を考えている未来志向の意見が多かった。また、全般として、生徒自身が十分に考えた予算編成となっていたといえる。しかし、授業中、お金の配分をする際、100億円と具体的な政策の関連をイメージすることが難しいという意見があった。金額に対する具体的なイメージがつかめるような追加の資料等が必要だといえる。

（藤井 時）

(2) 小学校の場合

① 第1次

導入では、児童に対し、税についての興味・関心を喚起するために、「ひげ税」、「窓税」、「消費税」の中で実際にあった税はどれかという税についてのクイズを出した。多くの児童が自身の買い物等の経験から、消費税に手を挙げたが、どれも過去から現在に存在した実際の税であることを示し、ワークシート（ワーク①）を配布した。

「税の集め方ゲーム」では、「体育館に冷暖房を設置するために400万円が必要です」と提示し、8班の負担のパターン1を2つ示した（パワポ3）。このうち、<1>

<1>		<2>	
1班	50万円	1班	1万円
2班	50万円	2班	2万円
3班	50万円	3班	3万円
4班	50万円	4班	5万円
5班	50万円	5班	9万円
6班	50万円	6班	30万円
7班	50万円	7班	80万円
8班	50万円	8班	270万円
計	400万円	計	400万円

パワポ 3. 「平等」と「公正」の集め方

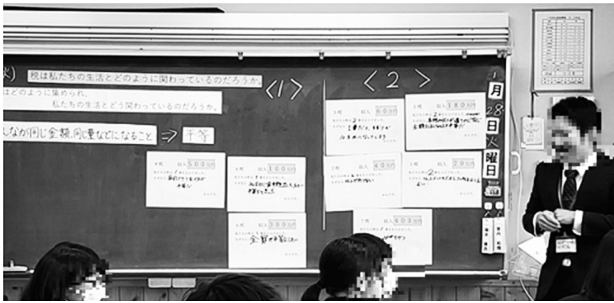


写真 2. 議論の様子

は、平等な考え方に基づく集め方である。次に<2>は公平の考え方に基づく集め方である。最初の問いでは、全ての班が<1>を選択した。次に、班の所持金を変えて同じ問いを投げかけた。1班が20万円、2班が40万円、3班が60万円、4班が100万円、5班が180万円、6班が300万円、7班が400万円、8班が500万円である。

班での話し合いの結果、収入の低い班（1班20万円～3班60万円）は<2>を選択していた。理由としては<1>を選んでしまうと生活ができなくなることをあげていた。一方、収入が高い班（4班100万円～8班500万円）は5班を除いては<1>を選択していた。理由としては、皆が同じ金額納めた方が平等であることをあげていた。収入が180万円あるにも関わらず<2>を選択していた5班の理由は、各班の収入が違うのに同じ金額を払うのは不平等だからとしていた。5班の理由は、「公正」についての問題提起といえる。各班の発表後に、「選択肢を変えたい班はいませんか?」と投げかけた。結果としては、動く班はいなかったが、児童は懸命にどの集め方をすればいいのかを考えていた。もう少し時間をとって考察させれば、判断を変える生徒もいたかもしれないが、その時間を取れなかったため、どうしたら平等で公正なのかについて、考えていくことが重要だと伝えた。

振り返りとして、税の集め方と選挙との関わりに触れた。まとめとして、

- ・税金の集め方は、選挙で選ばれた議員によって決められている。
- ・議員を選んでいるのは私たちであることを説明した。

その後、児童に感想を聞いたところ、「税は考えれば考えるほど奥が深くて興味深い」という発言があった。児童の発言時間を十分に確保できなかったことや、教師のまとめるタイミングの速さから児童の発言数が減ってしまったことなど課題はあったが、院生全員が試行錯誤した結果が、十二分に発揮されたと考えられる。

(前田 理拓)

## ② 第2次

導入では、「税の集め方ゲーム」では、平等で公正な税

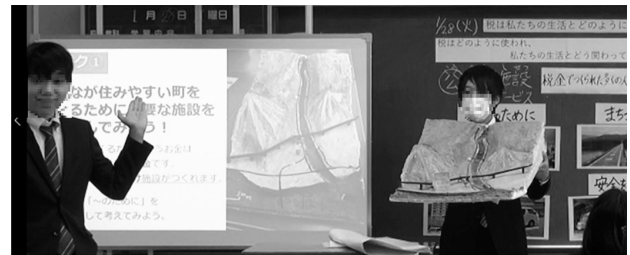


写真 3. 課題の提示の様子

の集め方について学習したことを振り返り、「税金 or NOT 税金クイズ」を行った。クイズでは、児童にとって身近に存在する施設（地域交流センター「ミライズ」、うだつアリーナ、セブンイレブン、美馬市ごみ収集所）

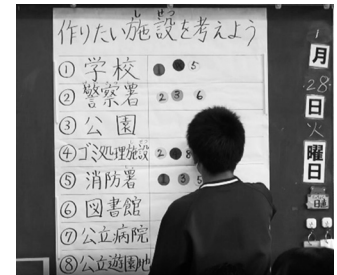


写真 4. 発表の様子

を提示し、身の回りにある公共施設や公共サービスの写真とともに、その目的や意義を確認した。その後、ワークシート（ワーク②）を配布した。

児童たちは、写真を見て自分たちの生活に身近なところに税金が使われていることやそれらの目的や意義を理解している様子であった。

展開では、「税の集め方ゲーム」に取り組んだ。まず、「みんなが住みやすい町をつくるために必要な施設を3つ選んでみよう」では、既存の町の状況に左右されないように、現在の街がつくられる前の時代から来たという者を登場させ、「街づくりを手伝ってほしい」という児童に呼びかけを行った。

このような場を設定したうえで、個人、そして、班で検討させた。意見がほとんど一致してスムーズに決まる班もあれば、意見が割れて決まらず最終的には多数決をとった班もあった。

これらの活動の後、班での活動の結果を黒板に提示させた<sup>6)</sup>。最も多かった項目は「公立病院」、次に「ゴミ処理施設」、その次が「消防署」「警察署」であった。「公立病院」については「病気になったときに困るから」、「ゴミ処理施設」については「ゴミをきれいにしてくれる人がいないと困るから」など、それぞれの公共施設・サービスの役割をふまえた理由が述べられた。また、班としては1票も入らなかった「公立遊園地」と「老人ホーム(公立)」について、個人で選んだ児童に理由を聞くと、「遊園地があったら生活が楽しくなり住みよい暮らしができるから」といった税の意義をふまえた回答や、「一人で生活できないお年寄りの世話をするために必要だと思ったから」という地域の高齢者のことまで考えた回答が得られた。児童たちは、他の班や児童の意見をしっかりと聞

き、選ぶことの難しさや公共施設・サービスや税金の意義について理解している様子であった。

本次の実践を終えての課題は「住みやすい街をつくろう」という設定について最終的な結末まで示せなかったことである。また、それぞれの班の選択について、意見交換する場を設定することで、より深い追究につながったと推察される。(松下 知夏)

#### IV. 授業実践の振り返り

##### 1. 学習成果に見る児童の到達度<sup>7)</sup>

###### (1) ルーブリックの作成

授業を受けた児童32人の学習成果の目標に対する到達度の評価を行い、授業実践の振り返りとした。取り上げた学習成果は、「2時間を通じてのふりかえり」のワークシートの記述である。まず、目標を踏まえ、評価規準を次のように設定した。

###### ①回答している：

表現したものがないと、学習成果を見てとることはできない。そのため、本授業の前提として必要であるという判断から設定した。また、記述の内容が授業の意図と異なる場合もここに位置づく。

###### ②使い方・集め方に関する記述がある：

税の「集め方」と「使い方」の2つの側面を取り上げることで、本授業の目標である「税と私たちの生活との関連」が表現できるため、この規準を設定した。

###### ③具体的な例がある：

実際の生活に即した理解のためには、「使い方」、「集め方」についての具体例（生活体験に根差した例や授業で扱った例）が必要となるため、この規準を設定した。

###### ④今後の展望がある：

単に「使い方」、「集め方」を併記するのではなく、これらを総合する視点が必要である。本実践では、その視点を「納税者としての今後の社会についての展望」と設

定することとしたため、この規準を設定した。

これら4つを規準とし、実際のワークシートの記述と照らし合わせながら確定した評価規準表と、それぞれの基準に位置づく生徒の記述の実際（代表例）である<sup>8)</sup>。

###### (2) 基準となる作品例<sup>9)</sup>

以下は評価5～1の代表的な作品例と判断理由の説明である。

**評価5：**自分たちの生活と税について等の具体例と将来への展望について記述もあり、税金の使い方と集め方両方に関しても踏まえられている。

税で色々な公共施設が建てられていたなんて知らなかった町には学校や病院、ゴミ処理施設など税を使われていることがたくさんある人々と思った。全部大切だと思うけど、税を考えて使うことも大切と思った。

評価5の作品

**評価4：**税金の使い方と集め方両方に関しても踏まえられているが、将来への展望については記述が欠けている。

やはり税金がなければ、教育や生活、健康スポーツもつくりか  
出来たりから税金がなくて出来ないのでやはり税金がな  
ければやはり町はつくれないし税を納めることも出来  
ないのでは、やはり税金は必要だと思いました。

評価4の作品

**評価3：**税金の使い方と集め方に関する記述はあるが、自分たちの生活と税についての具体的記述と将来への展望に関する記述が欠けている。

公共施設は、いっぱいあって、3つって選ぶことはできない  
思いました。税金があることで、いまのような楽しい生活が  
あるのだと思います。選挙で議員を選んだのは、選挙で  
ふたをあげる国民なので、税金の集め方をさす必要はないと思う。

評価3の作品

**評価2：**記入はあるが、税金の使い方と集め方両方に関して踏まえられておらず、自分たちの生活と税について等の具体例と将来への展望についての記述がない。

税金は、いつかみんなに払うことになるから、わりと  
税金のつかい方はみんなが払うことであるから、払うことわり  
り税金は、みんなに払うことであるから、わりと

評価2の作品

**評価1：**規準①には当てはまらないが、規準②③④からここに位置づいている。

記入はあるが、税についての感想にとどまっている。自分たちの生活と税について等の具体例と将来への展望についての記述がない。

表2. 学習到達度の評価のための評価規準表

	①回答している	②使い方・集め方に関する記述がある	③具体的な例がある	④今後の展望がある
評価5	○	○	○	将来への展望を記述している。
評価4	○	○	自分たちの生活と税についての具体的な記述をしている。	×
評価3	○	集め方・使い方の2時間の内容に関する記述をしている。	×	×
評価2	○	集め方・使い方のどちらかに関する記述をしている。	×	×
評価1	回答なし	×	×	×

(筆者作成)

私は、税が10%になっていざなうと思いましたが、税は  
いるんだと使われているんだと思いました。

評価1の作品

### (3) 到達の割合

図3は、それぞれの段階に位置づいた児童の割合を示したものである。児童32名中、評価1は13%（4名）、評価2は19%（6名）、評価3は56%（18名）、評価4は9%（3名）、評価5は3%（1名）であった。

## 2. 学習成果についての考察

税金の集め方、使い方について理解していると考えられる児童の割合（評価3～5に位置づく作品）は、88%であった。よって、目標である「税の集め方・使い方の仕組み及び背景にある財政民主主義という考え方や税と私たちの生活の関係を理解している」について、概ね理解していると思われる。また、これらの中で、税金の集め方、使い方のどちらについても、具体的な例を示した児童は、32%を占めており、「税の集め方・使い方」のように言葉で理解しているのではなく、生活に即した具体例として税についての理解を深めた児童がいることが指摘できる。なお、将来への展望について明確に示している児童は、1名しか見られなかったが、展望まではいかなくとも、感想（税金は必要だと思いました（評価4）、税金は本当に必要だと思いました（評価3））として、税の重要性を指摘している児童が見られた。このことから、展望とまではいかなくとも、将来的な納税者としての自覚が芽生えた児童が一定程度（評価5以外で、19名）いることが伺えた。

以上の分析から、本授業の目標はおおむね達成できたといえる。（笹岡 綾馬）

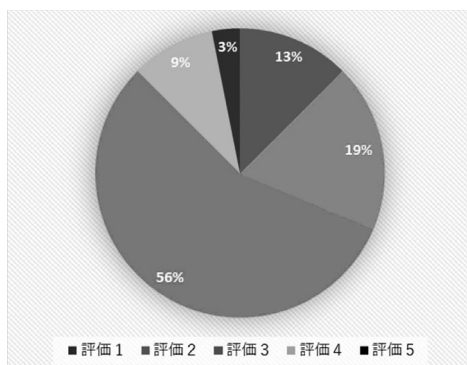


図3. 学習成果の到達度

## V. 本研究の成果と課題

本研究では、税理士による専門的な知見とアドバイスを踏まえた授業開発・実践を通して、納税者としての態

度の育成につながる外部機関との連携の在り方について考えてきた。本研究の成果は以下の3点である。

1点目は、税理士による専門的な知見とアドバイスを取り入れたことにより、教材に現実味が増したという点である。「税の集め方ゲーム」における金額の設定や「税の使い方ゲーム」の施設/政策の選択に当たり、制度運用のレベルからのアドバイスをいただいた。単に発達段階を考慮した金額より、現実味が増し、今回の授業を受けた児童・生徒及び授業開発を行った院生にとっても、実社会を垣間見ることにつながったといえる。

2点目は、日本税理士会連合会租税教育推進部『租税教育一講義用テキスト（2019年改訂版）』のシナリオ例を授業の目的に合わせて抽出し、実践化した点である。通常、租税についての授業は、税理士などの学校とは異なる仕事についている方が行うことが多い。そのため、児童・生徒の発達段階や通常行われる教科の学習と関連付けが難しいという問題があった。今回は、児童・生徒理解、教科理解を行っている大学院生がこれまで学んだ内容をもとにこのシナリオ例を「追試」し、翻案をすることで、児童・生徒の状況を踏まえた実践が可能となった。この取り組みは、外部機関との連携の新たな一例ととらえることができよう。

3点目は、税の「集め方」、「使い方」の2つのゲームを通して、児童・生徒に体験的に税の多面性について理解させることができた点である。ゲームと学習活動の構造化により、単元全体に「税」という面から一貫性のある授業実践を行うことができた。

本研究における課題の1つに、専門家との連携の時期が挙げられる。小学校の実践を行った1月末は、確定申告が始まる時期であり、四国税理士会の方にはかなりの無理をお願いする結果となった。一方、この時期は、学校からすると、最も外部機関からの出前授業を受け入れやすい時期である。しかし、この時期の設定は学校行事等の関係からのものであり、教育課程とはまた別のものである。本来なら、教育課程の中で最も適切な時期に行うべきであるが、現実的ではなく、いつでも実践できるような「飛び込み授業」の開発とならざるを得なかった。より学校や専門家に負担をかけることなく、教育課程の中に位置づけられるような授業開発の方法、外部機関との連携、授業の手立てを考える必要がある。

以上の課題はあったものの、一定の成果は見られた。これを踏まえ、今後もよりよい授業開発・実践を行っていききたい。（井上 奈穂）

## ◎謝辞

本授業の開発・実践にあたり、中学校の実践においては、鳴門教育大学附属中学校校長の大泉計先生、同中学



校の高崎英和先生、大谷啓子先生に、ご協力及びご指導・ご助言を頂きました。また、江原南小学校校長濱田圭二先生、同小学校教頭の重本哲也先生、第6学年担任の武下哲也先生にはご協力・ご指導・ご助言をいただきました。大変な時期にありがとうございました。また、授業の開発・実践に当たって四国税理士会の先生方、特に橋本峰人先生には授業開発の段階から、ご助言・資料提供をいただき、さらに、実践後の検討会でもいろいろとご意見いただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。

## ◎追記

本稿の内容は筆者一同の共同作業の成果であるが、本稿に記した報告の最終的な文責は井上にある。

(井上 奈穂)

## <参考文献>

- 井上奈穂ほか「小学校社会科における習得・活用型授業の構想と展開—単元『住民の政治参加』の場合—」  
鳴門教育大学授業実践研究, 第11号, pp.59 - 65, 2012. 3.
- 井上奈穂ほか『『情報化した社会』に関する概念の習得・活用を目指す授業の構想と開発害小学校5学年『くらしを支える情報』の実践害』  
鳴門教育大学授業実践研究, 第12号, pp.75 - 84, 2013. 3.
- 井上奈穂ほか「小学校社会科における体験型授業の構想と展開—小学校5学年『自動車産業について考えよう』の場合—」  
鳴門教育大学授業実践研究, 第13号, pp.81 - 90, 2014. 3.
- 井上奈穂ほか「小学校社会科における概念探究型授業の構想と展開—単元『これからの食料生産—どうする!? 回転ずし—』の場合—」  
鳴門教育大学授業実践研究, 第14号, pp.79 - 86, 2015. 3.
- 益井翔平ほか「概念の習得・活用を目指す小学校社会科授業—小学校第6学年『憲法とわたしたちの暮らし』の場合—」  
鳴門教育大学授業実践研究, 第15号, pp.65 - 73, 2016. 3.
- 小川雄大ほか「小学校社会科における視聴覚教材を活用した授業の構想と展開—小学校第6学年『平和で豊かな暮らしを目指して』の場合—」  
鳴門教育大学授業実践研究, 第16号, pp.57 - 64, 2017. 3.
- 原伸気ほか「小学校社会科の地域学習における副読本の開発—徳島県における塩業の変遷に着目して—」  
鳴門教育大学授業実践研究, 第17号, pp.57 - 67, 2018. 2.
- 長尾亮太ほか「中学校社会科における体験的な活動を通

した授業の構想と展開—中学校第3学年『憲法草案の選択と国の成立』の場合—」  
鳴門教育大学授業実践研究, 第18号, pp.57 - 66, 2019. 3.

山根拓ほか「中学校社会科における政策評価による授業の構想と展開—中学校第3学年『徳島市の将来から市の事業を見つめ直してみよう!』の場合—」  
鳴門教育大学授業実践研究, 第19号, pp.23 - 32, 2020. 3.

## <引用>

- 1) 鳴門教育大学は、「日本税理士会連合会教員養成大学寄附講座(2018年度~2020年度)」を受託している。本研究はその一環として行ったものである。
  - 2) 日本税理士会連合会租税教育推進部『租税教育—講義用テキスト(2019年改訂版)—』2019年。詳細は日本税理士会連合会HPの「租税教育」にある。  
<https://www.nichizeiren.or.jp/taxaccount/education/#n160707> (2020年8月29日確認)
  - 3) 「高校生向け講義用テキスト《参加・体験型》」の提示スライドより抜粋(日本税理士会連合会租税教育推進部(2019)), p.122.
  - 4) 憲法第83条が根拠とされる。  
「第八十三条 国の財政を処理する権限は、国会の議決に基いて、これを行使しなければならない」
  - 5) 同様の内容は、映像教材でも取り上げられている。アニメーションを通して、税のない世界の「大変さ」について考えさせるものとなっている。  
映像教材「マリンとヤマト 不思議な日曜日」(小学生向け), 「ご案内しますアナザーワールドへ(中学生向け)」
- 税の学習コーナー (<https://www.nta.go.jp/taxes/kids/video/ichiran/index.htm>)より抜粋, 2020. 08. 29確認。
- 6) 各班の選択は以下のようになった。

作りたい施設を考えよう	
①学校	1班, 4班, 5班
②警察署	2班, 3班, 6班, 7班
③公園	
④ゴミ処理施設	2班, 4班, 8班
⑤消防署	1班, 3班, 5班, 6班, 7班, 8班
⑥図書館	
⑦公立病院	1班, 2班, 3班, 4班, 5班, 6班, 7班, 8班
⑧公立遊園地	
⑨老人ホーム(公立)	

- 7) 本実践の到達度の分析・評価については、中学校で

の実践の対象が10名と少なかったため、小学校での実践のみ行った。

- 8) 評価1に位置づく作品については、「回答なし」だけでなく、②の規準に満たないものも入っている。規準①から④を判断する際、段階がずれた場合は、低い方の

の基準を採用している。

- 9) 代表例となる児童のワークシートの記述を抜き出したものである。なお、それぞれは以下のような記述になっている。

○評価5 税で色々な公共施設が建てられていたなんて知らなかった。町には、学校や病院、ゴミ処理施設など、税が使われていることがたくさんあるんだなと思った。全部大切だと思うけど、税を考えて使うことも大切と思った。

○評価4 やっぱ税金がなければ、教育や生活や健康スポーツまちづくりが出来ないから税金があって出来るのでやっぱり税金がなければよりよい町はつくりたいし支えてあげることが出来ないのやっぱ税金は必要だと思いました。

○評価3 公共施設は、いっぱいあって、3つで選ぶことはできないと思いました。税金があることでいまのような楽しい生活があるのだと思いました。選挙で議員を選んだのは、選挙で、ふだをあげれる国民なので、税金の集め方をさしずすることはできないと思う。

○評価2 税金は、いろんな人のためにあるということがよくわかりました。

税金のつかいみちは、みんながなっとくするようなことをするためにあるということもわかり、税は、ふかいなと思いました。

○評価1 私は、税が10%になっていやだなと思っていましたが、税はいろんなことに使われているんだなと思いました。

<授業資料（小学校での実践）>

○第1次のワークシート（ワーク①）

2020/1/28(火) 年 組 番 名前 ( )

税に興味がありますか?  ある  ややある  ややない  ない

『税は私たちの生活とどのように関わっているのだろうか。』

めあて:

<問題1>  
体育館に冷暖房を設置するために400万円必要です。いくらずつ税金を納めれば体育館に冷暖房を設置することができるでしょうか?最も良いと思うものを次の<1><2>から選ぼう。理由も考えてみよう。

<1>		<2>	
1班	50万円	1班	1万円
2班	50万円	2班	2万円
3班	50万円	3班	3万円
4班	50万円	4班	5万円
5班	50万円	5班	9万円
6班	50万円	6班	30万円
7班	50万円	7班	80万円
8班	50万円	8班	270万円
計	400万円	計	400万円

まとめ  
◎ ( )、( ) を組み合わせて、みんなが納得できるような集め方を目指している。  
◎ ( ) 議員が税金の集め方を決めているので、一人一人が税についてもっと知ろうとすることが大切である。

税金の「集め方」についての感想・考えたこと・思ったことを記入しよう。

○第2次のワークシート（ワーク②）

税金の使い方について考えよう

年 組 番 名前 \_\_\_\_\_

めあて \_\_\_\_\_

税金 or NOT 税金クイズ

第1問	第2問	第3問	第4問
-----	-----	-----	-----

施設 サービス

税金でつくられた多くの人が使う施設・サービス

みんなが住みやすい町をつくるために必要な施設を挙げてみよう(3つ)

5つの「~のために」を意識してみよう!

1 2 3

ふりかえり

施設名
①学校
②警察署
③公園
④ゴミ処理施設
⑤消防署
⑥図書館
⑦公立病院
⑧公立遊園地
⑨老人ホーム(公立)

○税に興味がありますか?  ある  ない